

# 喜楽苑だより 下町 ~ほんわか通信~

特別養護老人ホーム  
地域サポート施設 喜楽苑  
〒660-0807 尼崎市長洲西通2丁目8番3号  
TEL: 06-6488-9287 <http://www.kirakuen.or.jp>

喜楽苑地域ケアセンター  
あんしん24  
〒660-0806 尼崎市金楽寺町2丁目7番7号  
TEL: 06-4868-5525

2026年 新年発行  
第266号

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年 日本は昭和100年、戦後80年、阪神淡路大震災から30年を迎えました。また、日航機墜落事故から40年、福知山線の脱線事故から20年の節目の年でもありました。世界では激化する武力紛争が深刻な人道危機を招き、過去の歴史や災害・事故の教訓から、何物にも代えがたい「命の尊さ」について考えさせられる一年となりました。

また、大阪では55年ぶりに万博が開催されました。さらに元々は入居者自治会の発案で職員とご入居者が博覧会に出かけました。熱中症が心配でしたが、車椅子で元気に会場内を巡り思いに残る一日となりました。

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

社会福祉法人きらくえん 理事長 土谷千津子

法人のトビックスでは、築43年となる喜楽苑の大規模改修工事が始まりました。経年劣化箇所の修繕、設備更新、美観改修を行い、3月末の完工を目指しています。工事中はご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますようお願い致します。

そして、昨年は「障がい者雇用優良事業所」として兵庫県知事表彰を受け、サービス付き高齢者向け住宅「フイール須磨の丘」が医療福祉建築賞を受賞する嬉しいニュースが続きました。その他にも県の「ノーリフティングケア優良モデル施設」の認定を、また尼崎市の「外国人材の雇用・育成・定着支援モデル事業所」の認証を受けました。

本年は神戸市において、4月から他法人の事業を継承し、障がい福祉事業を新たにスタートします。ご利用者の尊厳を守る支援と役割づくりに取り組み、事業の継続と発展を目指していきたいと思っております。

本年が皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。

2026年 元旦

## 市川禮子名誉理事長と喜楽苑だよりをふりかえって

1988年6月号1面に掲載された「苑長就任にあたって」と題したあいさつ文。手書きの文字で綴られた言葉が並んでいます。

「こんなこと、書いていたねえ」

当時は毎月1日発行。原稿はすべて手書きで、印刷して配布していました。

1988年4月、喜楽苑が開設5年を迎えた年に苑長に就任。

当時は決して順風満帆ではなく、責任の重さを感じる日々だったといいます。

「逃げ出したくなったこともありましたが、でも、ここを守るのは自分しかいないと思って向き合っていました」

その支えとなったのが、職員やご入居者、ご家族の存在でした。

「みなさんの支えがなければ、続けられなかったと思います」

それから38年。手書きの『喜楽苑だより』に込められた想いは、266号まで大切に受け継がれてきました。



【中央】1992年9月号  
蔵屋敷を思わせるような  
「くの喜楽苑」完成

← 1997年1月号  
「あしや喜楽苑」がオープン

2011年 24時間対応の  
高齢者見守り事業がスタート

↑ 1988年  
手書きで毎月発行

2001年4月号  
「けま喜楽苑」完成 →

【中央】2007年  
法人名称が  
「尼崎老人福祉会」から  
「社会福祉法人きらくえん」へ

お知らせ

2026年度から「喜楽苑だより」を今号でお休みとさせていただきます。夏号から「きらくえん」の法人広報誌に統合・リニューアルします。当施設のとりくみは引き続きインスタグラム・ホームページでもご覧いただけます。



@KIRAKUEN.SAIYO



## ふるさと訪問

入居者の「もう一度、故郷を訪ね、親族のお墓参りをしたい」という願いから生まれたのが、「ふるさと訪問」です。  
お一人おひとりの大切な思い出の場所へ出かけます。  
同行した職員は、その方の歩んでこられた人生に深く触れ、  
「人生の完成期を、よりよいものにしたい」という切実な思いを胸に帰ってきます。  
この体験こそが、きらくえんが大切にしてきた個別ケアの原点です。  
ふるさとで出会うご親戚や、古くからのご友人との昔語り。  
その一つひとつが、その方の人生を鮮やかに映し出してくれます。  
喜楽苑の「ふるさと訪問」をいくつかご紹介します。

### 上田 侃太郎さん

1989年、多紀郡丹南町（現・丹波篠山市）へ。  
生まれ故郷の丹南町には、40～50年もの間帰ることができずにおられましたが、甥御さんや当時の町長さんのあたたかいご協力により、今回の訪問が実現しました。  
かつて議員を務められていた上田さんは、町長さんとの歓談の後、甥御さんと生家を訪問。お母さまとの思い出話に花を咲かせ、町並みを巡るドライブを楽しみ、「変わったなあ…」と言われながら、何度も何度も後をふり返っていました。



### 仲 モモエさん

2008年、和歌山県への「ふるさと訪問」は、息子さんやお孫さんのあたたかなご協力により実現しました。  
ご自宅周辺を車いすでゆっくりと散歩し、懐かしい景色を味わうひととき。ご家族と熊野本宮大社を参拝し、ホテルではご馳走を囲みながら、家族そろっての時間を過ごされました。  
仲さんの娘さんからは「私たちにとっては宇宙旅行に行くよりも嬉しい旅行になりました」との言葉をいただきました。

### 森本 和加子さん

2024年、島根県への「ふるさと訪問」。  
「元気なうちに、姉に会っておけばよかった」  
その思いをきっかけに、息子さんご夫婦や姪御さんのご協力のもと実現しました。  
お姉さまとの再会やお墓参りを経て、親戚が集う夕食では昔話に笑顔が広がりました。「こんな日が来るなんて思っていませんでした。本当に幸せです」と森本さんは何度もその言葉をくり返されていました。

これからも、ふるさと訪問を通して触れた人生の重みを日々のケアに生かしお一人おひとりの「その人らしい暮らし」を大切にしていきます。



## 新年あけましておめでとうございます。

昨年、国内では、物価高騰による不安定さが続きました。世界では、紛争や対立の長期化や気候変動による災害が相次ぎ、こうしたできごとは決して遠い話ではなく、私たちの暮らしや福祉の現場にも影響を及ぼしています。

喜楽苑にとっては、住環境の整備と地域交流にとりくむ1年となりました。11月からは改修工事が始まり、入居者・利用者のみなさまの暮らしに直結する部分を、順次リニューアルしています。

また、7月の防災イベント「イザ！カエルキャラバン」、10月の「喜楽苑秋まつり」、11月の「小田まつり」への出店、近隣小学校への出前授業など、地域の方々と顔を合わせ、交流する機会を多く持つことができました。

法人内では、「平和」について学びを深める管理職研修が行われ、初めて福島県の被災地を訪れました。人の営みが失われた街の静けさに触れ、災害や事故は決して過去のできごとではなく、今も続く課題であることを実感しました。便利さの裏にある犠牲や矛盾を直視し、「自分ごと」として考え続ける姿勢は、福祉の仕事にも通じるものだと感じています。

施設長として、こうした問いから目をそらさず、自分なりの軸をもち、職員とともに語り合える風土を少しずつ積み重ねていきたいと、気持ちを新たにしている経験でした。日々の実践や対話の中で、大切に生かしていきます。

本年も、入居者・利用者のみなさまやご家族、地域のみなさまに信頼される、喜楽苑らしい施設運営を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

喜楽苑 施設長 堀口 明子



## 令和8年 新年祝賀会

2026年1月1日、入居者の皆さんと職員が集い、新年祝賀会を開催しました。紅白幕や華やかな飾り、そして正装した職員の姿を目にして、「今年もお正月が来たって感じがするね」と笑顔で話され、祝賀会が始まる前から、会場はあたたかな期待に包まれていました。

代表としてご挨拶をお願いしていた方は、「うまくできるかなあ……」と少し緊張された様子でしたが、当日は皆さんを明るく盛り上げてくださり、あたたかな乾杯の音頭とともに、和やかに会が始まりました。施設長からは、無病息災を願ってお屠蘇がふるまわれ、豪華なお節料理を前に、「おめでたいものがいっぱいで、食べきれるかな」と、笑顔で語り合いながら召し上がられていました。  
午後からはご家族も次々と来苑され、皆さんで近くの神社へ初詣に出かけました。澄んだ冬空の下、一年の無事と健康を静かに祈られていました。昨年に続き、今年も晴天に恵まれ、皆さまとともに新春を迎えられたことを、職員一同、心よりうれしく感じています。この一年も、皆さまが健やかに過ごされますよう願っています。



今年もよろしく  
お願いいたします

